

COIL 型授業実践紹介

国際産官学連携 PBL - C

南山大学
 担当教員：山田貴将
 所属：国際センター

実施年度・時期 2020 年度・第3クォーター
連携先大学 香港中文大学、小島プレス工業株式会社
連携先授業名 上級日本語会話
連携先担当教員 上田早苗
COIL カテゴリ PBL COIL
参加学生数 南山：14 名、香港中文大学：24 名
使用言語 日本語
コミュニケーションツール ZOOM

交流内容

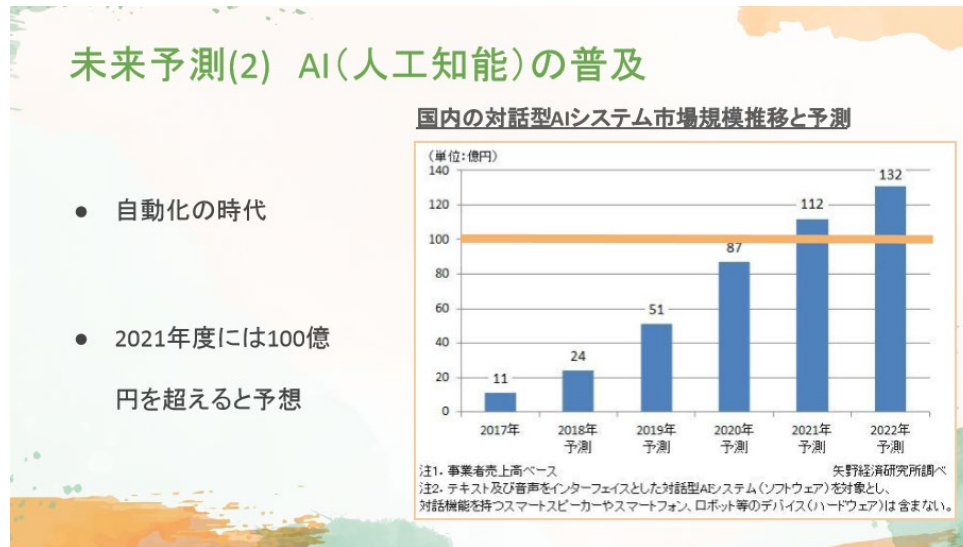
本プロジェクトでは、小島プレス工業（株）から提供された「10年後のクルマの形をデザインする」というテーマに関して、本学と香港中文大学（日本研究学科）の学生が日本語を使用言語としてオンラインで協働した。以下の図の通り、初回授業では、小島プレス工業（株）からプロジェクトのゴールやスケジュールが提示され、第2回目授業においては、アイスブレイクを通じてグループ（南山2名、香港中文3～4名からなる混合グループ）メンバー間の相互理解を深めた。その後約7週間に渡り、最終報告会でのプレゼンテーションに向けて、非常に活発なオンライン・グループ交流が行われた。本プロジェクトを通じて、参加学生は異文化協働のスキルを高めただけでなく、国境を超えた人間関係の構築を実現することができた。

国際産官学連携PBL (C)			
第1回	9月14日	オリエンテーション、小島プレス工業（株）講義	同期
第2回	9月21日	グルーピング、グループ交流	同期
第3回	9月28日	【講義】異文化コミュニケーション①	非同期
第4回	10月5日	【講義】異文化コミュニケーション②	非同期
第5回	10月12日	中間報告会	同期
第6回	10月19日	【講義】プレゼンテーション技法	非同期
第7回	10月26日	香港中文大学・上田先生講義	同期
第8回	11月2日	最終報告会	同期

評価方法

提出物 30%、最終レポート 30%、授業内外での取組への積極性 10%
 プレゼンテーション 30%

学生の成果物



プレゼンテーションに説得力を持たせるためにエビデンスを重視



小島プレス工業(株)の指導でコンセプトを「絵」で表現した

担当教員からのコメント（南山大学・山田貴将）

香港中文大学の学生との協働型交流を通じて、本学の参加学生は、「常に新しい環境から学ぼうとする前向きな姿勢」を身につけ、状況に応じて自らの考え方や行動のパターンを調整するスキルを高めるきっかけを得た。コロナ禍の影響を受け、全ての授業をオンラインで行うこととなったが、全体的に非常にうまくいったと考える。終了後アンケートを見ても学生の満足度は極めて高かった。その要因は以下の通りである。

- ・香港中文大学の上田先生及び小島プレス工業（株）の担当者と複数回に渡り綿密な打ち合わせを行い、プロジェクトの目的や実施に係る諸事項に関して丁寧にすり合わせを図ることができた
- ・可能な限り同期型で授業を実施した（全授業 8 回中 5 回）
- ・異文化協働プロジェクトを円滑に進めていくのに役立つ異文化コミュニケーションに関する講義を要所要所で実施した
- ・香港中文大学の学生とのやり取りに関する気付きを記入するコミュニケーションジャーナルを毎週提出させ、自らの異文化コミュニケーション行動を振り返る機会を提供した

担当教員からのコメント（香港中文大学・上田早苗）

中文大学の参加者は、「上級日本語会話」というクラスの履修者で、日本語による日常会話に大きな問題はないが、いかに社会的・専門的な話題について日本語で意見を述べたり議論したりする力をつけていくかが課題である。今回、南山大学の学生のみなさんとグループになり、日本語で話し合いを重ね、最終プレゼンテーションをやり遂げたことは学生たちにとって自信になったようである。また、日本企業の方から中間報告と最終プレゼンテーションに対してコメントをいただいたことも励みになったようだ。多くの学生が、今回のプロジェクトを通して日本語の語彙や表現の面で向上したと感じている。さらに、日本の学生と香港の学生はプレゼンテーションの準備の進め方に違いがあることが興味深かったという学生もいた。学生たちにとって、たくさんの気づきと学びがある貴重な経験であった。